

5. ヒメジャコの新規加入量調査

調査区の設定方法は1987年秋に50×40 mの定点枠内のヒメジャコを総て回収し、その後の加入量について調査した。

1988年6月2日、30日、7月28日、及び8月26日に目視観察したが、6月3日の時点で約5～10 cmサイズ5個体が散在していた。これはヒメジャコの成長量から考えて調査区設定時に取り残した個体であると判断した。それ以外では目視可能な稚貝の加入は認められなかった。

6. 底質の粒度組成調査

本年度は図8に示す浅部st. 1～5の5地点で調査した。1988年8月26日に区域内浅部5地点で採泥し、底質の粒度組成を調べた。採泥にはエクマン・バージ型採泥器(1/50 m²)を使用した。処理方法は前年と同じで、測定に用いた標本重量は各地点とも200 gずつである。

結果は表7と図9に示した。st. 1では極粗粒砂(>2000 μm)の比率が高く、その他の地点でも中央粒径値は粗粒砂(500 μm付近)であった。5地点とも250～500 μm以上でほぼ80%以上を示し、粗粒砂から極粗粒砂が大半を占める。また、st. 2からst. 5の組成は非常に近似している。塩酸処理後の残留率は過去の調査と同様に湾口部の値が湾奥部に比べて低い傾向がみられる。特にst. 2、3では河川からの陸土の流入の影響によると思われる高い値がみられる。

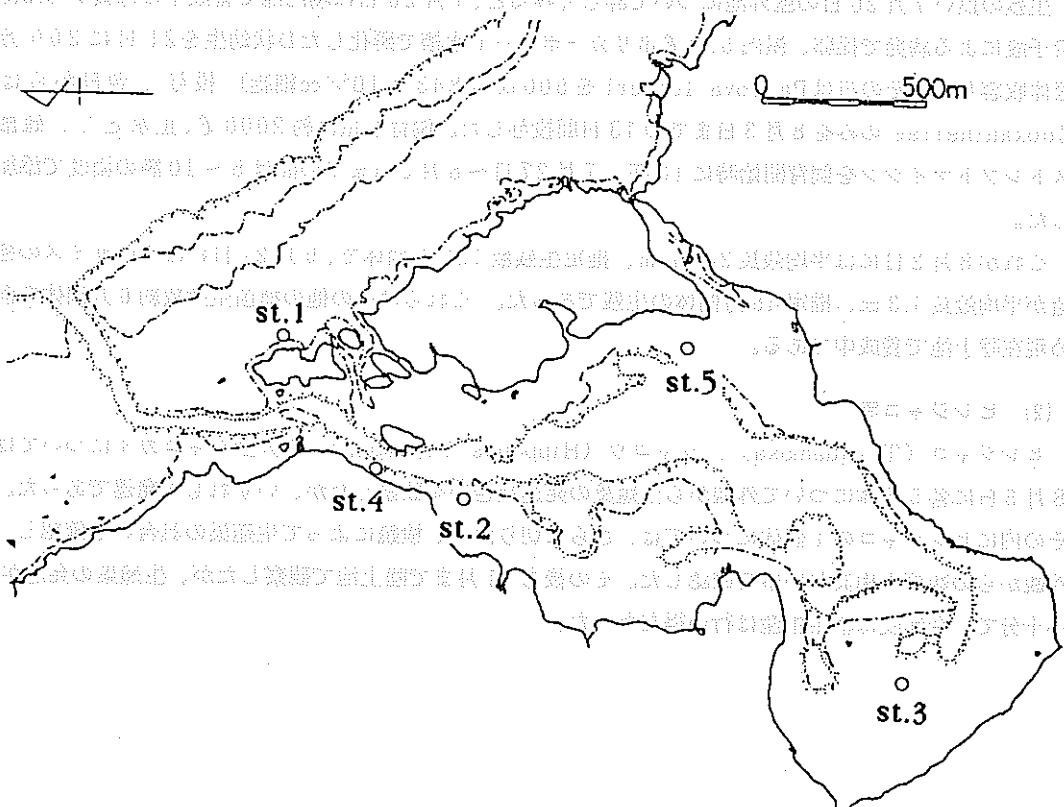


図8 粒度組成調査地点

表7 浅部底質の粒度組成

St.No	Size (μm)	>2000	2000-1000	1000-500	500-250	250-125	125-63	63>	HCl 処理後 残留率(%)
1		39.7	23.6	15.6	13.5	4.8	0.4	2.5	2.9
			63.3	78.9	92.4	97.2	97.5	100.0	
2		1.8	18.2	28.8	32.3	14.7	0.9	3.3	48.0
			20.0	48.8	81.1	95.8	96.7	100.0	
3		6.8	14.2	27.1	32.9	13.3	1.6	4.0	44.4
			21.1	48.1	81.1	94.4	96.0	100.0	
4		7.9	17.3	30.1	28.6	11.2	0.5	4.5	3.8
			25.2	55.3	83.8	95.0	95.5	100.0	
5		8.7	8.9	22.8	38.8	14.5	1.7	4.6	20.5
			17.6	40.3	79.2	93.7	95.4	100.0	

上段：重量比(%)，下段：積算重量比(%)

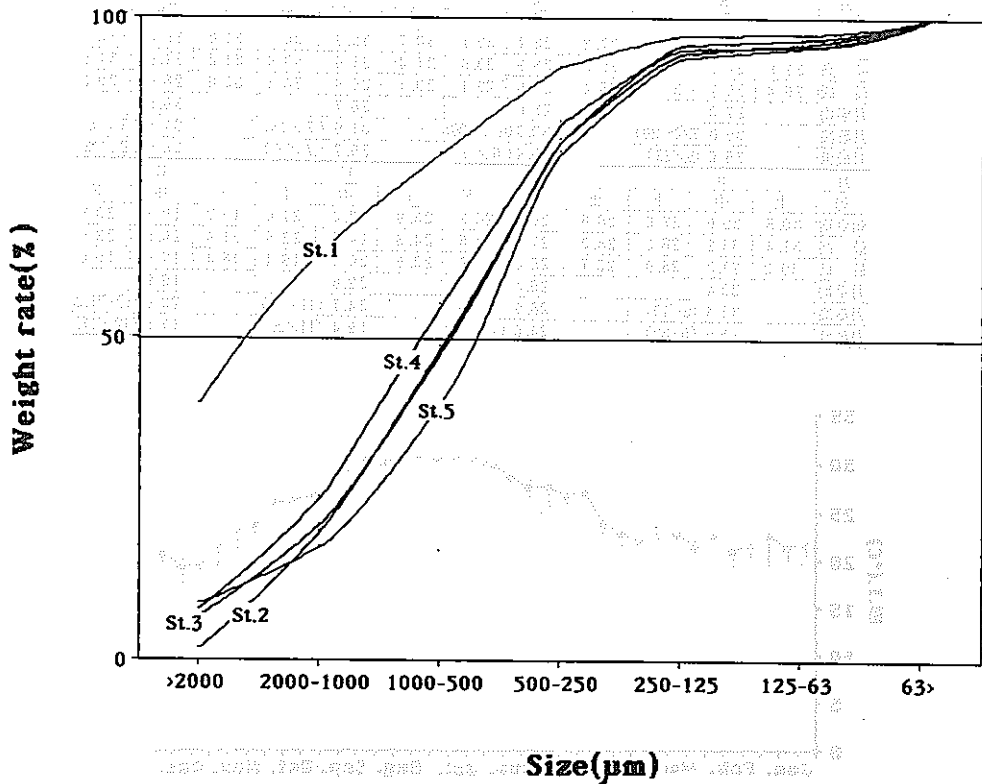


図9 粒度組成